

## 業界から一言

### 製造業

食料品製造／洋菓子関連は、冷菓は好調だが、焼き菓子の減少のため、ほぼ横ばい。砂糖価格の上昇と原油価格の高騰に伴う包装材料の値上げが収益を圧迫。県産ワインは、従来は輸入ワインや原料をブレンドして使用していたが、純国産ぶどう一〇〇％使用のワインブランド確立に向けての動きが一部で高まっている。

繊維・同製品／織物は、クールビズの影響によりネクタイ生産の稼働率が低下。中国産服地の品質が良くなり、定番商品の競争が激化している。また、マフラー関連商品の受注が益々厳しい状況。衣服製造は、秋・冬物の生産で忙しいが、先行きは不透明。

紙・紙加工品／製販とも低調に推移しており、上昇の気配がない。原油高騰の影響で石油製品の値上げが収益を圧迫。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、四月～六月は民間マンション建設の影響により順調に推移したが、七月は公共物件の落ち込みが大きく、ここ数年で最低の出荷量。今後も公共土木物件が少ないため、期待できない。砂利採取認可があり、フル操業となり、前年比二五％増であるが、許可が遅れたし、寄せが収益を圧迫しており、売上高が増加しても収益は回復しない見込み。

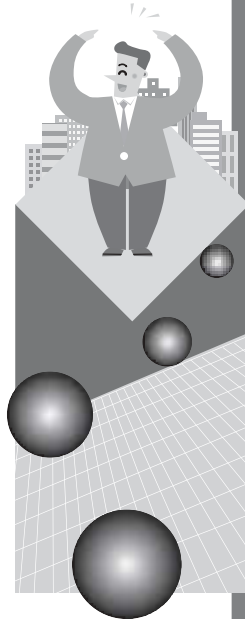
鉄鋼機械金属／夏休み前の追い

込み需要があったが、全体としては弱含みの安定である。材料費経費の上昇分の転嫁が認められたが、発注量の減少を補うほどの収益への貢献はない。

宝飾品／依然として厳しい状況であるが、展示会への動きが見られ、多少上向き感がある。

### 非製造業

小売業／水産物は、鮮魚、加工品関係は不調であり、大型店の出店計画がある地域では廃業の増加が懸念。八月の旧盆の需要増に期待。トレーサビリティの実施により、生産履歴が明確な国産牛を中心に中元商品の売上が増加。また、パキユ用商品の売上が増加しているが、全体としての売上は不変。牛・豚肉の仕入価格が上昇しているが、小売価格に完全に転嫁できないため、収益を圧迫。家電は、昨年は異常気象により活況であったが、今年はエアコンなどの季節商品が大幅に前年割れとなった。液晶テレビなどの映像、情報商品が伸長したが、前年比減であった。今後も季節商品の在庫調整に不安が残る。ガソリンスタンドは、七月は元売各社の原油価格の値上げ分の四円の値上げを実施したが、適正な利益の確保には至っていない。また、八月には原油価格の高騰を替による円安の影響で元売各社が三円程度の値上げを予定しており、販売業者も同様の値上げを実施す



# 景況情報

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告  
(平成17年 7月分)

調査対象の50業界のDI値は、製造業においては、「業界の景況」は回復、「売上高」は大幅に回復、「収益状況」はやや回復、非製造業においては、「業界の景況」はやや回復、「収益状況」「売上高」とも悪化、全体としては「業界の景況」「売上高」はやや回復、「収益状況」はやや悪化した。

一部の業界において明るい兆しが見え始めているが、建設業界は公共事業削減の影響が大きく、原油価格高騰の直接・間接の影響を受けている業界も見受けられる。

一部の業界において明るい兆しが見え始めているが、建設業界は公共事業削減の影響が大きく、原油価格高騰の直接・間接の影響を受けている業界も見受けられる。

下の客が高級感のあるホテルを求めたため、客単価が上がり前年度並み。ピアガーデンの客足も前年並み。団体客から個人・グループ客またネット予約など既存の営業からの大きな変革が求められている。

建設業／民間建築物の需要が少なく、加えて公共事業が減少しており、今後の倒産の増大が懸念。中小の建設業者は、大手の参入により、個人住宅建築の受注が減少している。型枠工事は、年内の受注は見込めるが、来年は公共工事の削減により民間工事の受注競争の激化が予想され、工事単価の低下が懸念される。鉄鋼工事は、中国の建築需要が一段落し、国内産の鋼材の増産により、鋼材価格が値下がりしたが、ゼネコンが受注単価を下げてきたので、収益の回復にはつながらない。管工事は、工事量、工事単価ともに微増であるが、材料費、一般管理費の増加により収益は悪化。

運輸業／トラック業界は、軽油価格の高騰による経営への影響が深刻になり、運賃への転嫁を荷主に要請する以外に経営危機を突破する手段はないと考える組合員が増加している。

る予定。  
サービス業／  
ホテル・旅館は、  
夏休みに入り、「近・短」志向の客が県内に訪れたのと、インパウン